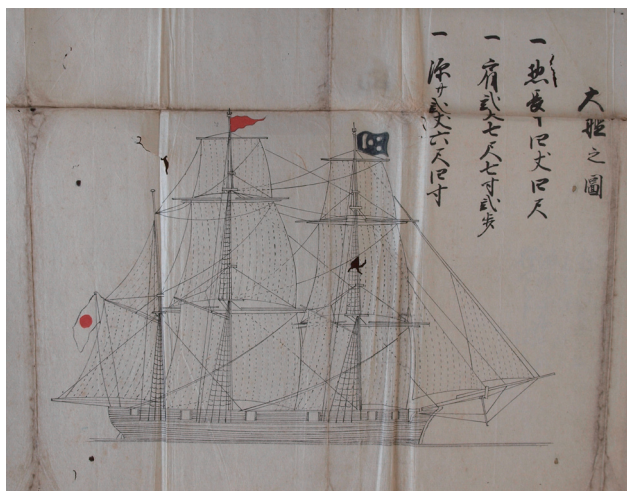


洋式軍艦の建造



* 丙辰丸（毛利家文庫15 文武99 「丙辰丸製造沙汰控」）



* 庚申丸（毛利家文庫15 文武100 「大艦製造一件沙汰控」）

解説

幕府はペリー来航を機に、西欧の海軍に対抗するため、1853（嘉永6）年9月大船建造の禁を解き諸大名に対し造船を奨励しました。

長州藩では1856（安政3）年に軍艦の建造を決定し、ロシア式の技術を用いて「君沢形」の「スクーネル（スクナー）」を建造し、完成した年の干支から「丙辰丸」と名付けられました。

君沢形というのは幕末に君沢郡戸田村（現在の静岡県沼津市）などで建造された西洋式帆船の形式です。1854（嘉永7）年の安政東海地震の津波により、ロシア船ディアナ号が大破した際、帰国用の代船がロシア人乗組員の設計のもと戸田村とその周辺の船大工らによって建造されました。これは日本で建造された初の本格的な西洋式帆船（2本マストのスクナー）で「戸田号」と名付けられました。戸田号建造に当たった人々により、その後同型の西洋式帆船が建造され、これらの形式の船は、建造地の郡名から「君沢形」と呼ばれました。

長州藩では、つづいて1860（万延元）年にオランダ式の技術を用いて庚申丸が建造されました。



* 写真上は「丙辰丸」「庚申丸」の二つの軍艦を建造した恵美須ヶ鼻造船所の絵図です（毛利家文庫15文武99「丙辰丸製造沙汰控」）。